

令和8年度（2026年度） 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	看護学科	公衆衛生学	1年後期	1	原田 規章	本科目は、高齢者医療機関における臨床医としての経験、一般企業における産業医としての経験を踏まえて、実際の社会現場での医療の現状とあり方、具体的な対応の経験を説明することによって、教科書のみでは得られない教育効果を期している。	
保健医療学部	看護学科	精神看護学概論	2年前期	1	岩崎 優子	本科目は、精神科臨床看護師としての経験の知識・技能を生かした授業を展開する。（精神臨床看護師（看護師：国家資格））	
保健医療学部	看護学科	カウンセリングの理論と技法	2年後期	1	石橋 通江	「病老死苦」人には免れない4つの苦悩があります。看護は、人間が体験する苦悩をやわらげ、成長するのを支援する役割をもっています。カウンセリングの基礎的な知識と技術を備えることで、看護援助を展開するために必要とされるコミュニケーション能力を高めることが可能になります。精神科臨床看護師としての経験と公認心理師の資格を活かし、授業のなかでは講義だけではなく、実践的な演習を展開します。	
保健医療学部	看護学科	急性期看護方法論	2年後期	2	高島 利	本科目は、主要な疾患の急性期にある患者の特徴的な看護について、系統別・機能別に代表的な疾患を取り上げて学習する。病状の変化が激しく、突発的に疾患が発症した患者とその家族が置かれる危機的状況に対処する方法を理解できるように、エビデンスに基づいた看護についての知識を習得したうえで、代表的な疾患の事例を用いて看護過程の展開を行う。使用する事例については、実際に臨地実習で受け持つ周手術期の患者の状況や看護をイメージしやすいように現在の医療現場に近い状況を設定し、臨床経験を踏まえて説明を行っている。また、周手術期の患者への特徴的な看護技術を学習する際には、臨地実習で実際に受け持つ可能性が高い代表的な疾患を用いて、実際の看護の状況をイメージできるように、臨床経験を踏まえた説明を加えながら、授業を展開する。	
保健医療学部	看護学科	小児看護学方法論	3年前期	2	生田 まちよ	本科目は、実務経験のある教員が、小児看護に必要な看護実践能力を習得するために、小児看護技術習得に向け根拠・理論を概説し、グループワーク・発表やシミュレーション学習を行うものである。小児病棟での勤務経験を活かし、病棟での実際の看護実践の様子を概説したり、実際の看護の状況をイメージしやすいように教授する。	
保健医療学部	看護学科	精神看護学方法論	3年前期	2	岩崎 優子	担当教員は、精神科病院での臨床経験、訪問看護による地域生活支援をふまえて授業展開している。精神障害者が発症に至るまでの成育歴や生活背景を分析することを通して対象者を理解する方法、対象者の個性を生かした援助方法について教授する。またロールプレイ等の演習により治療的コミュニケーション技術が習得できるよう授業展開している。	
保健医療学部	看護学科	公衆衛生看護管理論	4年後期	2	疋田 理津子	本科目は、地域保健の対象別・課題別活動の理念、現状、施策、活動の実際について理解することを学習目標としている。学生が公衆衛生看護活動を具体的に理解できるよう、行政機関での保健師経験を活かし教授する。	
保健医療学部	看護学科	看護倫理	4年後期	1	村井 孝子	本科目は、専門職業人として看護職者がその責務を果たし、看護実践の質を保証する上で不可欠の要素である倫理の概念を理解した上で、臨床実践における倫理的問題やその背景、ジレンマや課題の解決に向けた考え方や理論について学ぶ科目である。講義展開においては、臨地での実践経験や教育経験を活かし、看護実践に埋め込まれる倫理的思考や行動に加え、臨地で経験する倫理的問題のとらえ方や対処、そのために必要な能力を培うことができるよう講義展開する。	
保健医療学部	看護学科	看護管理	4年前期	1	村田 尚恵	本科目は、臨床現場における教育専任看護師長の経験を活かし教授する。特に、看護職者のキャリア発展や現任教育のシステムについて説明するとともに、現状での課題について学生が考察するようにしている。	
単位数合計				13	※省令で定める基準単位数 13単位（学科単位）		

令和8年度（2026年度） 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像技術学Ⅰ	1年後期	1	高木 剛司	本科目は、X線一般撮影法における検査目的、撮影方法、被ばく管理、および画質評価に関する体系的な知識と技術の習得を目標とする。診療放射線技師としての臨床経験に基づき、画像形成の諸性質への理解を深めた上で依頼科の検査目的に応じた最適な撮影技術の選択、被ばく管理、そして客観的な画質評価を相互に関連付けながら講義を展開する。	
保健医療学部	放射線技術科学科	X線CT画像技術学	2年後期	1	徳禮 将吾	本科目は、X線CT検査における撮影および造影技術、画像評価について学習する。CTは日常診療で広く用いられており、適切な撮影・造影条件の設定や画像評価の知識が求められる。診療放射線技師としての臨床経験を活かし、実際の症例や現在の検査方法を取り入れながら授業を展開し、学生の理解を深めるとともに、臨床実習に向けた実践的な知識の習得を促す。	
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像技術学Ⅲ	2年後期	1	高木 剛司	本科目は、造影検査における検査目的、方法、原理および各種造影剤の臨床応用に関する知識の習得を目標とする。診療放射線技師としての臨床経験をふまえ、依頼科の検査目的と検査方法を関連付けながら講義を展開し、学生の造影検査に対する理解を促している。	
保健医療学部	放射線技術科学科	MR画像技術学	2年後期	1	幾嶋 洋一郎	本科目は、MRI（磁気共鳴画像）の原理と特徴、臨床応用に関する知識を習得することを目標とする。MRIは原理が難解であり、取り扱いの安全性について特別な配慮が必要であるが、診療放射線技師としての臨床経験を活かし、具体的な事例や応用例を織り交ぜつつ授業を進め、学生の理解を促す。	
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像機器学Ⅱ	2年後期	1	川路 康之	本科目は、講義を通して、診療画像機器装置の構成・動作原理及び物理工学的特性を理解することを目標としている。機器の原理・特性について深い理解を得るためには臨床における診療画像機器の役割を知ることが重要となる。授業では実務経験を踏まえ、学生がそれぞれの装置の特性だけでなく、他の機器との比較によるメリット・デメリットなどが学べる構成になっている。	
保健医療学部	放射線技術科学科	核医学検査技術学Ⅲ	2年後期	1	筒井 悠治	本科目は、核医学検査に必要な放射性医薬品、検査原理、検査方法、画像再構成法などに関する学習を目的とする。大学病院における診療放射線技師としての臨床経験をふまえ、検査や画像再構成における技術的側面を中心に講義し、核医学検査技術や核医学画像再構成に関する考え方の理解を促す。	
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像機器学Ⅲ	2年後期	1	吉田 豊	本科目は、診療放射線技師国家試験の診療画像機器学に今後出題されると思われる最新の機器・検査に関する授業を含めている。学内に設置されている医療機器のみでは実習できない内容を、診療放射線技師としての臨床経験を活かし、具体的な検査例を提示し、機器についての学生の理解を促している。	
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像技術学実験Ⅰ	2年後期	1	吉田 豊	本科目は、実際の医療機器を用い、単純X線検査、MRI検査、患者移乗介助に関する実験と実習を行い、診療放射線技師に求められる基礎的な技術を身につけることが目的である。本科目を担当する教員4名全員が診療放射線技師としての臨床経験を有しており、検査における患者接遇、医療安全管理について、学生に対して詳細に指導している。	
保健医療学部	放射線技術科学科	超音波画像技術学	3年前期	1	吉田 豊	本科目は、超音波診断装置の原理と特徴、臨床応用に関する知識を習得することが目的である。超音波検査は担当者の技量が診断に大きく反映されるので、診療放射線技師としての臨床経験を活かし、同時期に行う上腹部超音波実習の内容を引用しながら、技術を伴った知識の習得ができるよう学生に指導している。	
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線治療技術学Ⅱ	3年前期	1	久家 教幸	本科目は、放射線治療技術習得が学習目標であり、放射線治療専門放射線技師としての臨床経験を踏まえ、現在の臨床に即した知識を教えることができ、放射線治療技術教科書+αの学習をすることが出来る。	
保健医療学部	放射線技術科学科	医療安全管理学Ⅱ	3年前期	1	川田 秀道	本科目は、医療従事者の一人として必要な医療安全に関する基本的な知識の取得を学習目的とする。大学病院での医療安全活動の経験をふまえ、リスクマネジメントのあり方、KYT実習を通じての危険予知トラブルの回避などの実践力を修得するとともに診療放射線技師の責任及び業務範囲を理解し、造影剤投与に伴う危険因子ならびに重篤な合併症の発生時の適切な対応について多職種による造影剤副作用シミュレーション経験を通して解説し、診療放射線技師の役割分担及び対処能力の重要性を促す。	
保健医療学部	放射線技術科学科	診療画像技術学実験Ⅱ	3年前期	1	吉田 豊	本科目は、実際の医療機器を用い、眼底カメラ、MRI、X線CT、上部消化管、マンモグラフィ、上腹部超音波に関する実験と実習を行い、診療放射線技師に求められる基礎的な技術を身につけるとともに、患者接遇のあり方や検査前後および検査中の医療安全管理について、学生自身に考察させることが目的である。本科目を担当する教員全員が診療放射線技師としての臨床経験を有しており、学生に対して詳細に指導している。	
保健医療学部	放射線技術科学科	放射線治療計画演習	4年前期	1	久家 教幸	本科目は、実際の放射線治療計画装置を用いて、基本的な放射線治療計画を習得することが目的である。医学物理士として一般的な計画から高精度放射線治療計画の臨床経験してきたことを踏まえ、計画手法を理解させることにより、臨床現場における実践的な知識と技術を養わせることが可能である。	
単位数合計				13	※省令で定める基準単位数 13単位（学科単位）		

令和8年度（2026年度）実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	検査科学科	臨床検査学概論	1年前期	1	青木 義政	本科目は、臨床検査技師を目指す学生にとって最初の専門科目であり、臨床検査技師の業務内容、職場の魅力、研究や留学など、学生が持つ将来の夢を実際の臨床経験を基に講義・演習の形で授業を展開する。大学病院検査部の副技師長経験者として「臨床検査の基礎」、「医療における臨床検査技師の役割」を理解させ、臨床検査の重要性について考え、今後の4年間、大学で勉学を続けるためのモチベーションを高めることを養う。	
保健医療学部	検査科学科	医療安全管理学	1年後期	1	上村 勇作	平成27年4月より臨床検査技師等に関する法律が改正され、検体採取業務（微生物学的検査）の拡大、生理機能検査項目（味覚・嗅覚検査）が追加された。さらに臨床検査技師による検査説明・相談に対する要望が高まり、チーム医療の一員として重要な位置を占めている。本科目は、病院の臨床検査技師としての臨床経験をふまえ、正しい検体採取の方法と考慮しなければならない倫理的な問題、医療安全について法的根拠をもとに学習を行う。さらに、チーム医療における臨床検査技師の役割についての意義と理解を促す。	
保健医療学部	検査科学科	免疫検査学実習	2年後期	1	猪俣 啓子	本科目は、感染症、腫瘍、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症などの各種疾患の診断や治療評価のための臨床検査のうち、免疫学的検査法の基本的技術を理解し習得することを目的としている。現在、免疫学的検査は臨床検査の現場で専ら自動分析機器を使用して実施されているが、本科目で免疫検査学の基本的な手法を実践することで、検出された検査値への理解が深まり疾患理解へとつながれる能力の涵養が期待できる。当該実習を行うにあたっては、臨床検査技師として研究施設を併設する病院検査室における臨床検査実務経験、免疫学的手法による研究業務経験および、診断薬企業との協働研究による診断薬開発経験等を活かして、免疫学的検査の基本手法と知識の習得ができるように実習を展開する。	
保健医療学部	検査科学科	病理検査学実習	2年後期	2	村田 和也	病理検査学実習は正常の解剖・組織と病理学などの知識を基に、ブタの臓器を用いた病理組織標本の作成から、組織像、各種特殊染色の染色方法、染色の目的、染色結果について知識を修得する。大学病院で臨床検査技師・細胞検査士として勤務し、病理組織検査業務に携わってきた経験を活かし、標本作製技術や各種特殊染色の知識が習得出来るように実習を展開する。	
保健医療学部	検査科学科	神経生理検査学実習	2年後期	1	片山 雅史	本科目では、神経生理の臨床現場で培った経験を生かし、多くの機器を操作し、患者と接する時間が長い検査としての必須事項を指導する。神経生理は、高いテクニックが要求される分野であるため、背景となる基礎的な学術知識に加えて、より現実味を帯びた実技指導を図る。また、臨床から検査結果の解釈を求められる機会が増加していることを鑑み、基本から難解な症例まで数多く紹介する。	
保健医療学部	検査科学科	臨地実習	3年後期	11	青木 義政	本科目は、臨地実習を通して、医療チームの一員として臨床検査技師の役割を学び正しく行動できることを学習目標とする。大学病院での臨床検査技師としての実務経験を生かし、具体的な場面設定とシミュレーションを実習前演習として行い、病院での様々な状況に沿った判断力・実践力を修得するとともに、実習効果を高めることを促す。	
単位数合計				17	※省令で定める基準単位数 13単位（学科単位）		

令和8年度（2026年度）実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	医療工学科	臨床工学概論	1年前期	1	岡原 重幸	本科目は、臨床工学技士の成り立ちから今日までの推移および業務全般についての説明を行い、臨床工学技士の全体像を理解することを目的としている。講義に関しては自身の臨床経験も踏まえて実践的な形式で行う予定である。	
保健医療学部	医療工学科	臨床工学関係法規	2年前期	1	真砂 京平	本科目は、臨床工学技士法に示される職種に係る法や、医療法や薬機法といった関連する法規を学ぶことを目的としている。生命維持管理装置の操作及び保守管理に加え、第5次改正医療法で医療機器の管理にかかる安全体制の確保、さらには2021年7月の医師の働き方改革に伴うタスク・シフト/シェアに関連する法令改訂等に関して、臨床工学技士として実際の臨床現場で経験した事柄を交えながら、医療専門職としてのあり方を理解できるように講義を展開する。	
保健医療学部	医療工学科	医用治療機器学	2年後期	2	森 聡史	本科目は、医用治療機器を使用した治療が、安全に施行できるよう各機器の操作方法、副作用などを修得することを目的としている。電気的および機械的治療機器の原理・特性を理解したうえで、各治療機器の設定、安全管理、トラブル対処法についても教授する。臨床工学技士としての臨床経験を生かし、実際の症例での使用例から、操作方法や合併症などのビジュアルを提示し、最新の治療機器について修得できるよう講義を展開する。	
保健医療学部	医療工学科	生体計測装置学	2年後期	2	伊藤 朋晃	本科目は、臨床で行う生体計測に関する理論と生体計測装置の基本構成、ならびに機器の安全使用・安全管理に関する内容に教授する。臨床工学技士としての臨床経験を生かし、実際の症例を用いて、生体の電気現象（心電図、脳波、筋電図など）、物理現象（呼吸、循環、体温など）、化学現象（血液ガスなど）の計測装置と、画像計測装置（超音波・放射線を用いた画像装置、MRI、内視鏡装置など）の原理、構造、操作方法を呈示しながら、各種生体計測装置の臨床応用方法について修得できるよう講義を展開する。	
保健医療学部	医療工学科	呼吸療法学Ⅰ	3年前期	1	岡原 重幸	本科目は、集中治療領域での呼吸不全の病態に応じた呼吸管理について学ぶことを目標としている。機械的人工呼吸装置およびその他呼吸療法（酸素療法、吸入療法など）の原理・特性を理解したうえで、呼吸療法の選択、設定、安全管理、トラブル対処法についても教授する。臨床工学技士としての臨床経験を生かし、実際の症例から各種モニタリングのビジュアルなどを提示し、最新の呼吸療法について修得できるよう講義を展開する。	
保健医療学部	医療工学科	呼吸療法学Ⅱ	3年前期	1	岡原 重幸	本科目は、集中治療領域での呼吸不全の病態に応じた呼吸管理について学ぶことを目標としている。機械的人工呼吸装置およびその他呼吸療法（酸素療法、吸入療法など）の原理・特性を理解したうえで、呼吸療法の選択、設定、安全管理、トラブル対処法についても教授する。臨床工学技士としての臨床経験を生かし、実際の症例から各種モニタリングのビジュアルなどを提示し、最新の呼吸療法について修得できるよう講義を展開する。	
保健医療学部	医療工学科	体外循環学Ⅰ	3年前期	1	吉川 貴則	本科目は、循環器外科領域での体外循環および疾病により機能不全に陥った循環器・呼吸器の機能代行法について学ぶことを目的としている。体外循環の対象となるのは、新生児から高齢者となるため、これらを網羅した循環器・呼吸器の解剖学、生理学、病態生理学、薬理学の基礎知識を必要とする。本講義では、新生児から高齢者への体外循環の臨床経験を基に、すべてのヒトに対応した体外循環技術について教授する。体外循環は人工臓器であるため、生体流体工学、材料工学などの基礎的知識もついても学び、体系的に体外循環の知識が修得できるよう講義を展開する。	
保健医療学部	医療工学科	体外循環学Ⅱ	3年前期	1	吉川 貴則	本科目は、循環器外科領域での体外循環および疾病により機能不全に陥った循環器・呼吸器の機能代行法について学ぶことを目的としている。体外循環中の病態生理学に加え、重要臓器の微小循環におよぼす影響とその対処法について教授する。本講義では、新生児から高齢者への体外循環および補助循環の臨床経験を基に、前述した内容を補助循環領域にも対応させて講義を展開する。実際の症例を提示して、体外循環の管理法から各種モニタリングについて講義を行い、機械的循環・呼吸管理におけるヒトの全身管理について修得できるよう講義を展開する。	
保健医療学部	医療工学科	血液浄化学Ⅰ	3年前期	1	山本 裕之	本科目は、疾患により低下した腎臓の機能を代行する治療である「血液透析」について主に学習する。血液透析は医学的知識に加え、工学を含む多くの学問領域の知識を必要とする。講義では、血液浄化施設での臨床工学技士としての実務経験を生かし、血液透析療法の意義、原理、構成とともに治療に必要な医用材料や薬剤の種類や特徴とともに、血液透析治療に必要な機器および周辺機器の特徴・管理について具体的かつ体系的に講義を行う。また、その他の腎代替療法についても教授することで、多様な知識の修得を目指す。	
保健医療学部	医療工学科	血液浄化学Ⅱ	3年前期	1	山本 裕之	本科目は、疾患により低下した腎臓の機能を代行する治療である「血液透析」について主に学習する。血液透析は医学的知識に加え、工学を含む多くの学問領域の知識を必要とする。講義では、血液浄化施設での臨床工学技士としての実務経験を生かし、血液透析療法の意義、原理、構成とともに治療に必要な医用材料や薬剤の種類や特徴とともに、血液透析治療に必要な機器および周辺機器の特徴・管理について具体的かつ体系的に講義を行う。また、その他の腎代替療法についても教授することで、多様な知識の修得を目指す。	

令和8年度（2026年度）実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

学部	開講学科	授業科目名	開講年次	単位数	担当教員名	実務経験を生かした授業運営の方法	備考
保健医療学部	医療工学科	臨床工学特論Ⅰ（集中治療）	4年前期	1	岡原 重幸	本科目は、演習を通して、エビデンスに基づいた急性期における呼吸療法、血液浄化、補助循環の知識と技術を取得することを学習目標とする。集中治療室における臨床工学技士としての臨床経験をふまえ、具体的な症例設定により、病態の理解、各治療方法の選択、人工呼吸器、補助循環装置の設定などのシミュレーション学習を行う。受講者に臨床での判断力・実践力を修得させるとともに、エビデンスへの探求と理解を促す。	
保健医療学部	医療工学科	臨床工学特論Ⅱ（循環制御）	4年前期	1	吉川 貴則	本科目は、循環器領域での生命維持管理装置に携わる上で必要となる循環生理学を深く学び、学問に基づき演習を行い科学的な生命維持管理技術の修得を目標とする。臨床工学技士としての体外循環を経験を基に、実際の臨床データで演習を行い、洞察力、考察力を養いあらゆる場面に臨機応変に対応できる人材学習を行う。この講義を通じて、臨床現場での事象に科学的に判断し行動できる知識や技術の修得を目指す。	
保健医療学部	医療工学科	臨床工学特論Ⅲ（代謝管理）	4年前期	1	山本 裕之	本科目は、血液透析を含む代謝管理に必要な知識をさらに深めながら、臨床現場で特に重要である透析工学・透析液管理学の基礎から応用までの知識修得を目的とする。特に、本講義では血液浄化施設での臨床工学技士としての実務経験を生かし、透析工学においては人工腎臓の理論および物質の生体内キネティクスを教授することで、適正透析の理解へと導き、透析液管理学では透析液中の化学的・生物学的汚染物質の基礎とその清浄化の理論と実際を学ぶ。本講義を通じて、臨床現場で血液浄化業務に関わる実践力・応用力を有した臨床工学技士として必要な知識の修得を目指す。	
保健医療学部	医療工学科	臨床工学特論Ⅳ（臨床支援）	4年前期	1	森 聡史	本科目は、臨床支援に関する機器の知識と技術を取得することを学習目標とする。手術室、集中治療室、心臓カテーテル室における臨床工学技士としての臨床経験をふまえ、具体的な機器の操作や設定を実践的に教授し、臨床支援技術に関するシミュレーション学習を行う。受講者に臨床での判断力・実践力を修得させるとともに、臨床支援に関する業務の探求と理解を促す。	
単位数合計				16	※省令で定める基準単位数 13単位（学科単位）		